

ま き え ら で ん は く ら く て ん ず す ず り ば こ
蒔絵螺鈿白楽天図硯箱

種 別 有形文化財（工芸品）

員 数 1 合

所在地 金沢市出羽町 2 番 1 号
石川県立美術館

所有者 石川県

概 要

本品の作者は尾形光琳で、加賀藩年寄役であった横山家（^{はっか}八家の一つ）に伝来した硯箱である。

謡曲「白楽天」を題材とし、唐の詩人白楽天が海路日本に渡来し、^{ぎょおう}漁翁の姿をとる住吉明神と、中国の詩と日本の歌について、問答を交わすという幻想的な場面を描いている。

素地は方形丸角被蓋造り^{かぶせぶたづく}の典型的な光琳様式の硯箱で、蓋表は唐船に乗った白楽天と船頭を描き、蓋裏は船に乗って問答を交わす漁翁を、動きのある姿で表現している。人物の衣装、船、蓋表左上の岩山、身の右半分に描かれた松樹の松葉などは、鉛板を貼って豪快に表現し、蓋の表裏の人物は、顔、手、足等の肌の部分に螺鈿の技法を用いている。

地文様は、黒漆地に金蒔絵で光琳特有の見事な筆致^{ひつち}で、うねりのある波文様^{はもんよう}を大胆華麗に描き、その波文様は蓋の表裏や身の内側や側面へと連続し、作品を豪華に飾っている。身の内側と底面は金の沃懸地^{いかげじ}仕上げで、裏面中央のやや下方に「^{せいせいこうりんづくり}青々光琳造」の銘が記されている。

なお、白楽天や漁翁、松樹の構図は、重要文化財「小西家伝来尾形光琳関係資料」（大阪市立美術館所蔵）の中の、光琳^{がこう}画稿にすでに見えており、この作品制作のための原図と見られる。

光琳が私淑した光悦作品の強い影響を受けながらも、光琳独自の新様式を確立した秀作である。

このため、その文化財的価値は高く、有形文化財に指定し、その保存を図ることが必要である。

